

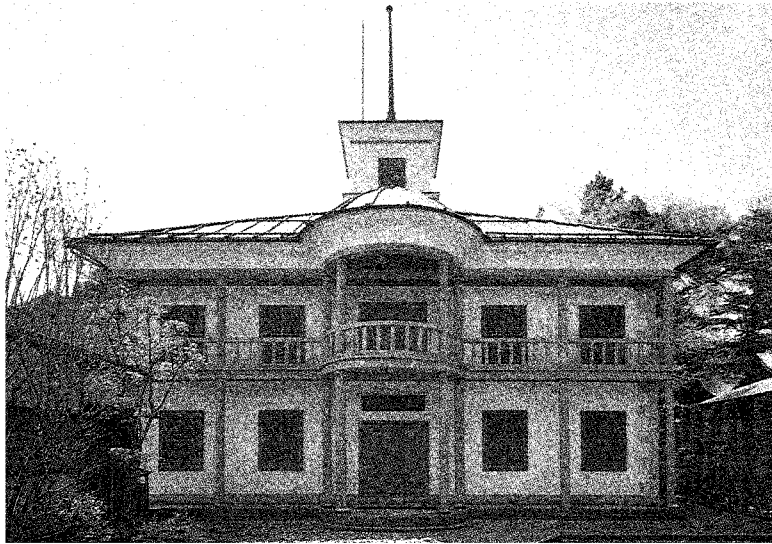
ふるさと文化財散歩

今月は、深まりゆく秋の一日を、ゆっくりと歴史や文化を訪ねてみてはいかがでしょう。

旧尾尾県学校校舎

県指定有形文化財第三十七号

旧尾尾県学校校舎は今から百二十年前の明治十一年五月五日に開校した建物で、当時の県令であった藤村紫朗が奨励した洋風建物で、県令の名にちなんで藤村式建物と



よばれ、県内で数多く建築されました。この建物は昭和十六年（一九四一）に廃校となるまで小学校として利用された他、青年団の事務所などが置かれ、地域の教育文化の中心的な役割を果たしてきました。廃校後は地域の集会場として親しまれ、地域の方や卒業生などによって、尾尾県学校保存会が結成されて、去る昭和四十五年三月三十日には市の有形文化財第一号として指定を受けました。昭和四十八年十一月には約半年にわたる復元工事が完了し、さらに昭和五十年三月十七日に県の有形文化財として指定されました。

現在は、教科書や文具及び写真などの教育資料を展示する教育資料館として開館し、日常の展示の他、特別展も開催しています。

また、地元の小形山の人たちによって協力の会も結成されていてオオムラサキの保護活動「蝶の公園づくり」、史跡の再発見や高川山の整備「アメニティ小形山」などユニークな活動や入館者への案内の他、館内外の美化活動などの積極的な奉仕

活動が実施されていて訪れる方々の好評を得ています。

現存する藤村式建物は県内には、この建物の他、甲府市の藤村記念館、増穂町の旧春米小学校、牧丘町の旧室伏小学校の四棟で愛知県犬山市の明治村に移築された旧東山梨郡役所もあり、すべて貴重な建物となっています。

なお、尾尾郷土資料館の開館は、火・木・土・日曜日及び祝日の午前十時から午後四時までとなっています。 ※現在の知事にあたる

勝山城址

市指定史跡第四十三号

勝山城址は「お城山」とよばれ、市の中心部から望むことができません。また、頂上からの眺望はすばらしく、手軽な散歩コースとしても親しまれています。甲斐国志によると浅野長政の家老浅野左衛門氏重によって文禄三年（一五九四）に築城されたと記されていますが、最近の研究では、それ以前の、小山田氏が中津森館（金井桂林寺前付近）から谷村（市役所周辺）に館を移した、天文元年（一五三三）に要害城として築城に着手したのではないかと考えられるようになってきています。

この勝山城は桂川を天然の堀として利用し、勝山城址の案内板のある登山道入口付近の一段下った水田は外堀（泥堀）跡です。ここ

から約一五〇メートルあまり登山道を登って行くと右手崖下が

えぐられ、左手の方は幅約一五メートル程が窪んでいます。これは城の西側の守りを固めるために築かれた「空堀」の跡

で西側の山腹を半周して頂上の「本丸」のすぐ下まで続いている見事なものです。さらに登山道を登っていくと約二六〇メートル程で川棚見張台と呼ばれる小さな平坦地に至ります。ここは西側の監視や押

えとして築かれたものです。そしてさらに登って行くと道は険しくなると、「三の丸」、「二の丸」へと至ります。この付近には城内の兵力の移動に使う段になった「帯曲輪」を見ることが出来ます。いよいよ「本丸」（頂上）に近づくと石垣が残されています。この石積の方法は「打ち込みはぎ積」と言われ、近世の城郭に数多く見られます。「本丸」のある頂上の東照権現社付近には外敵の侵入を防ぐための土を積み上げた土塁の残も見られます。「本丸」から東側を下る道を行くと平坦地に至りますが、ここは「焔硝蔵」と呼ばれ、秋元氏が城の時には鉄砲の火薬を保管した所と伝えられています。

す。「本丸」から北東に下るとすぐ途中に石積が見られ、少し進むと先程の「空堀」と合流します。ここから先は道が急に狭くなり、道の両側は約六メートルの幅で「堅堀」により、切り落とされていて、大沢見張台に至ります。ここは独立した小さな「曲輪」ですが、ここには将軍家献上用のお茶の貯蔵所「お茶壺蔵」があったと伝えられていて、昨年の暮から今年の初めまで調査が進められました。

また、お城の「お茶の水」として利用した甘露山正観寺跡の甘露池が復元されました。その他、勝山城にまつわる史跡は数多くあります。

